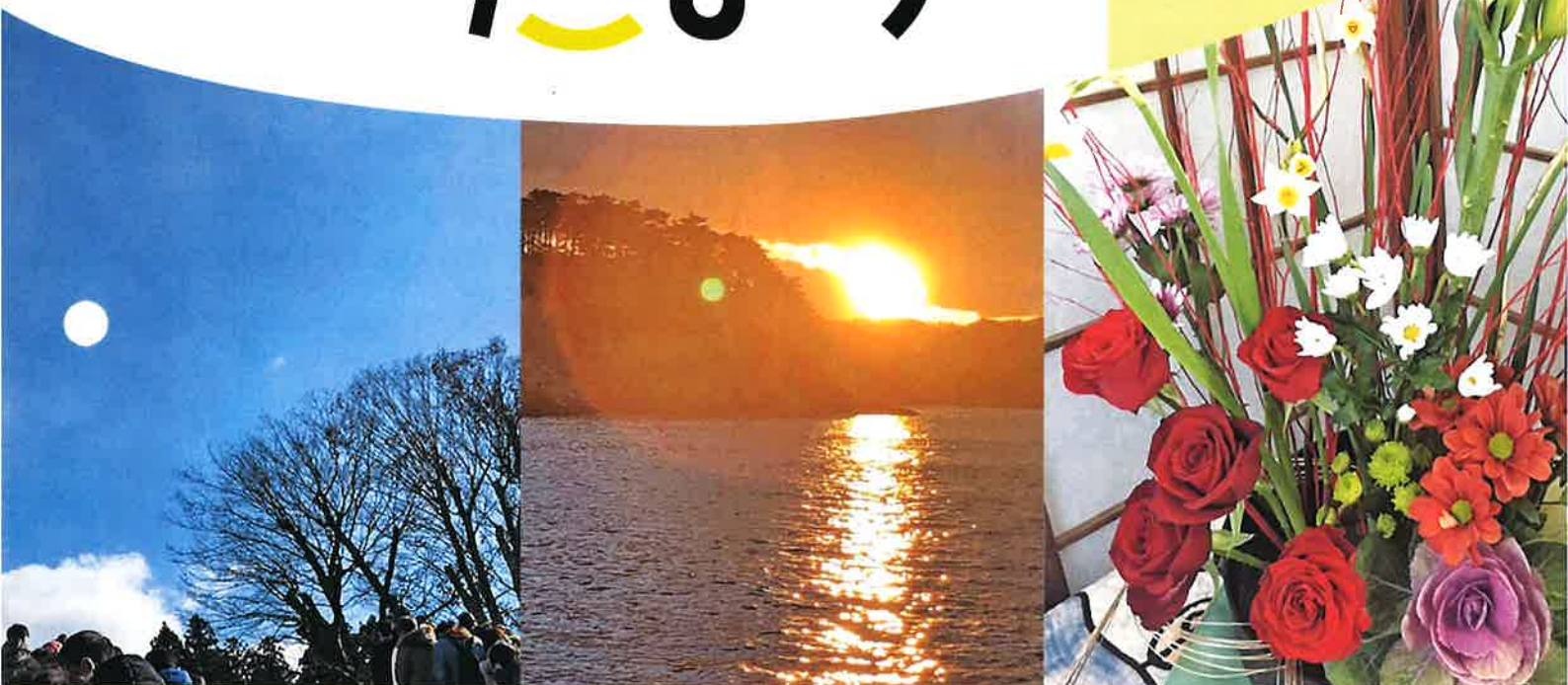


協議会 だより

2019.2月発行

—第48集—



次の時代を迎えるために

一般社団法人 岩手県訪問看護ステーション協議会
会長 関 りゅう子

新年明けましておめでとうございます。

平成31年が始まりました。平成の時代が終ろうとしています。会員の皆様にとって、平成はどのような時代でしたでしょうか。

当訪問看護ステーション協議会の平成を振り返ってみました。

平成8年「訪問看護従事者の資質の向上と会員及び多職種相互の連携」を目的として設立されたと聞いております。以後の活動については、資料が残っていないため残念ながら詳細は分かっておりません。

平成24年、全国訪問看護事業協会主催「都道府県連絡協議会交流会」へ役員の参加がきっかけとなり、それまでの組織体制や運営を見なおすことになりました。当時、少子高齢化が話題となり、訪問看護をめぐる状況に変化をもたらしておりました。一人暮らしや高齢者世帯・老老介護など、家族介護力の弱体化が加わり、同時に訪問看護の利用者も、がん末期患者や人工呼吸器

を装着して生活する人など、医療ニーズの高い利用者が増えてきていました。時代の変化に私たちはどう対応していかなければならないか。これまでと同じ訪問看護を続けているだけでは、これから求められる期待に十分に答えられない。

私たちができることを考えたとき、ステーション相互の連携と協同であり、そのためには組織力をつけたいと思いました。その第一歩として法人化に取り組みました。

平成28年6月一般社団法人としてスタート。訪問看護の質の向上や、地域包括ケアへの対応を実践してきました。元号が改まりますが今年は猪で「巳亥」の年、「内なる充実を図り、次のステージの準備をする年」となるそうです。(看護協会ニュース1月号より)

今まで積み上げてきた結果を大切に、一緒に取り組んで行きましょう。会員、関係者の皆様には引き続きご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。

2018.8.4
岩手保健
医療大学

在宅医療人材育成事業



地域みんなで取り組む入院・退院支援

～ aging in place(この町で暮らし続ける)を
実現するために

在宅移行支援研究所
宇都宮宏子オフィス

宇都宮 宏子先生

訪問看護ステーションこっぼら

菊池 祐子

平成30年8月4日(土)、念願の宇都宮先生の講演会を開催する事が出来ました。

この研修会には、訪問看護師以上に病院の看護師の方々に足を運んでいただきました。

県外(秋田)から、更には一般市民の方にもご参加いただき、広く様々な方々と同じ時間を共有できるようになり、大変うれしく思っております。

102名の方々に研修会にご参加いただきました。感謝申し上げます。

宇都宮先生のお話を伺うと、訪問看護師として、「本人さんの思いを繋ぐ事の出来る看護師であり続けたい。」と感じます。

今回研修以外でも協議会のあり方や研修会のあり方等々様々な学ぶことが出来、貴重なお時間をいただくことが出来ました。改めて宇都宮先生の偉大さを感じ、今後も機会がありましたら、またお話を伺いたいと感じております。

2018.8.5
アイーナキャンパス
学習室

情報交換会
メトロポリタン
4階 JUEEN

在宅医療人材育成事業 管理者研修

管理者・スタッフを成長させる課題

～身近なものから取り組もう～

はみんぐ

訪問看護ステーション

埴 真美子先生

会員39名、非会員4名、合わせて43名が参加し、埴先生のお話を聞きました。先生は、はみんぐ訪問看護ステーション管理者、起業ナースの会でも大変ご活躍されており、貴重なお話を聞くことが出来ました。

また、グループワークを通して管理者同士の学びも深まりました。

情報交換会は、昼食を囲みながら和やかに自己紹介し、管理者の日々の悩みなどを打ち明けました。

それぞれいろいろなことを抱えながら同じような悩みも持っており、ますます頑張ろうとか私もこうしてみようという思いになったと思います。講師の埴先生もご参加くださり、会員23名非会員3名の26名は楽しく元気をもらったひとときとなりました。

来年もあると思います。ぜひみなさん、ご参加ください!



2018.8.18
大船渡
カメリアホール

2018.8.25
岩手保健
医療大学

2018.10.6
江刺総合
コミュニティーセンター

市民公開講座
人生の最終段階を
いっしょに考えてみませんか
私そして大切な人
～いのちの大事な選択のヒントが～
あるかもしれません

岩手保健医療大学学長 清水 哲郎先生



ー中央ブロックー

訪問看護ステーションやはば 坂本 由美子

中央ブロックでは8月25日、岩手保健医療大学で医療職56名、一般24名の80名の参加のもと開催されました。

研修会開催にあたり皆様のご協力ありがとうございました。本人を中心とした意思決定は必要になった時からではなく、大事な家族と今から考えていかなければならないと感じ広く多くの方々に知っていただきたい講演でした。

今後も市民の皆様へ多くの様々な情報を提供する機会が継続できればと思います。



アンケート結果

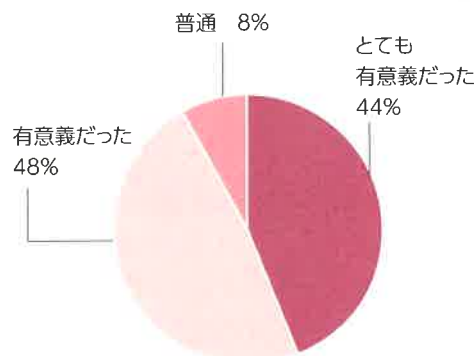
ー県南ブロックー 訪問看護ステーションたまちゃん 道又 由実子

●研修会に参加して印象に残ったこと

- 最終段階は長いという事にあらためて気づかされました。
- 相手の価値感をベースにする（意思決定のプロセス）。
- 清水先生の「判断ができなくなっても、その人には老いてもプライドがある」との言葉に同感です。
- どう生きていきたいかを聴き、何が最善かを一緒に考えていきたいと思いました。
- 老いを考える良い機会になりました。
- 高齢の母のこれからの人生の有り方について、もう一度よく考えるための良い参考にしていきたいと思いました。

●気づいた点・今後研修会に期待すること

- もっと気楽にざっくばらんにできるものだといい。
- 今後、たびたび終末期、終活についての講演会を開いてほしい。
- 時間が短かった。等



ステーション紹介

訪問看護ステーション虹ノ橋

管理者 矢羽々 葉子

はじめまして。訪問看護ステーション虹ノ橋です。看護師6名、セラピスト3名、事務員1名、計10名で運営をしています。

スタッフが一致団結して利用者様の目標を支援できるように、申し送りを徹底し、事務員も含め、様々な意見を出し合い、多角的な視野を大切にしています。

セラピストは看護師を、看護師はセラピストを頼りにし、お互いの専門性を引き出し合うことがとても大切だと、日々実感しております。

皆さまと一緒に、地域医療の

担い手として、沢山の方に求められるステーションになりたいと思っています。

平成30年は、初めて看護実習生を受け入れ、利用者様にとっても喜んでいただけたことが、心に残っています。実習生の学びの深さにも感銘を受け、こちらの方が実習させていただいた気持ちです。

まだまだ発展途上の状態ですが、今後とも、皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら、成長して参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



第15回 北海道・東北ブロック 訪問看護ステーション連絡協議会 合同研修・交流会

内丸病院訪問看護ステーション
鎌田 眞紀

9月15日秋田県田沢湖高原温泉で開催された、合同研修・交流会に参加いたしました。研修会は、秋田県藤里町の月宗寺住職袴田俊英氏より「多死社会に向けた死に対する訪問看護師の心構えと関わり」と題したお話を聞きました。先生は自死問題に取り組み「心といのちを考える会」を立ち上げて活躍されています。また、在宅医療とターミナルケアについてのお考えも深く、寄り添うことの重要性を改めて痛感いたしました。講演のあとは先生のご指導のもと写経を行いました。私は写経が初めてだったのでとても興味深く臨みました。ピンと張りつめた空気とその時間が心地よかったです。その時間に書ききれなかった残りは、家に帰ってから完成させました。



家でも余韻に浸ることができました。

交流会は、秋田県の協議会のみなさんの進行でした。おいしいごちそうをたくさんいただきながら、他県の訪問看護師と交流しました。参加者は秋田県32名、北海道10名、宮城県8名、青森県10名、山形県6名、福島県8名、岩手14名の参加でした。来年は北海道定山溪温泉で9月21日～22日開催予定です。地震や災害で大変なご苦労をされた北海道ですが、交流を深め頑張りを分かち合いながら高めていけたらいいと思います。まだ参加されたことのないみなさんもぜひ参加して、他県の訪問看護師と交流し一緒に学びを深めましょう。



編集後記

平成最後の協議会広報誌発行いたしました。来年度は新たな元号での発行となります。

協議会も、会員のみなさまに支えられこそ新たに猪突猛進！前進あるのみです！（鎌田）



一般社団法人岩手県訪問看護ステーション協議会

〒028-3615 紫波郡矢巾町大字南矢幅7-445 TEL 019-613-4493 FAX 019-613-4494